

日本痛風・尿酸核酸学会 評議員会議事録

開催日時：2023年2月8日（水）17:30～18:35

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

(1) 金子理事長が議長となり、午後17:30に開催を宣言した。審議に先立ち議長より本日の出席状況は下記の通りと報告された。評議員43名 出席者26名 委任状提出者9名 欠席者8名 監事出席者2名 名誉会員出席者6名 続いて下記審議が行われた。

(2) 続いて予め配布された議案資料に沿って以下の通り審議が行われた。

【第1号議案 2022年度決算・監査報告】細山田先生、板倉先生
細山田庶務幹事より配布された決算書に基づき2022年度決算内容の説明があった。貸借対照表の資産の部では資産合計が3,430,940円増の64,483,453円。負債の部では967,304円減の3,516,762円。正味財産合計は4,398,244円増の60,966,691円になったとの報告があった。正味財産増減計算書ではガイドライン第3版追補版の発行によりガイドライン印税が4,139,040円増の4,709,654円となった。一方ガイドライン転載許諾料は1,109,780円減ながらも5,544,220円の収益があった。経常収益合計は1,965,924円増の25,186,025円となった。経常費用については事業費としてガイドライン費がガイドライン中国語版発行費用及び第1回web講演会開催費用により1,091,283円増加している。また今年度より若手研究者支援事業が発足し、682,830円の費用がかかっている。総会費用は前年と比べ1,446,781円の増加だった。管理費として事務用品費が事務局用パソコン購入もあり382,793円かかっている。この結果、経常費用合計は3,653,894円増の20,787,781円となった。財産目録の方でも正味財産は60,966,691円となり貸借対照表と一致している。さらに税理士からの確認報告書も受け取っているとの説明があった。その後、板倉監事より監査報告があり2021年12月1日から2022年11月30日までの業務執行状況や財産状況につき監査を行った結果事務手続などは適正に行われているとの報告があった。議長が議案1の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て決算報告は承認された。

【第2号議案 2023年度予算案】 細山田先生

引き続き細山田庶務幹事より配布の予算案に基づき 2023 年度の予算内容の説明があった。経常収益の受取寄付金 600,000 円は若手研究者支援事業に対しての予算で 2023 年度は 1,100,000 円で計上、特別賛助会費は帝人ファーマの退会に伴い 500,000 円減の 700,000 円で計上、正会員会費は前年度予算とほぼ同額の 4,000,000 円計上している。次に経常費用について、昇給に伴う給与手当の増額、総会託児室費用が入るために会議費の据え置き、PC 購入済のため事務用品費の減額がある。租税公課は 2022 年度の事業収入に対して計算された法人費 2,766,000 円を計上している。第 56 回学会総会収入および費用は 12,512,000 円と試算している。経常費用合計は 25,428,000 円と見込んでいるとの報告があった。議長が議案 2 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て予算案は承認された。金子理事長より昨年度は 600 万円、今年度も 400 万円ほどの黒字が出ている。大きな要因はガイドラインの印税・転載許諾料や総会時の利益であるとのことであった。

【第3号議案 第58回総会（2025年開催） 会長選出】 金子理事長

金子理事長よりこの学会総会は東側、西側の順番で学会総会を開催している。来年度（第 57 回）は鳥取赤十字病院の荻野先生が会長で西側、再来年度（第 58 回）は東側の順番になっている。執行部で相談し、理事会で審議したところ、第 58 回学会総会の会長候補者として医療法人社団つばさ両国東口クリニック理事長 大山博司先生を推挙することが提案され、議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。大山先生よりご挨拶があり「歴史のある学会総会の会長にご指名いただきありがとうございます。クリニックにつき力不足の部分はありますが総会の成功に向けて全力で努力させていただきますので諸先生方のご助言ご協力をよろしく願いいたします。」とのことであった。

【第4号議案 2022年度学会賞受賞者決定報告】 金子理事長

2022 年度学会賞は名誉会員・理事・評議員より推薦された候補者を学会賞選考委員会で審議し、厳選な審査の結果、大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学 講師である藏城雅文先生に決定したことが金子理事長より報告された。2月23日（木・祝）の第56回学会総会で学会賞受賞講演をしていただくとのことであった。

【第5号議案 2022年度若手研究者支援事業 若手研究者賞・若手研究助成決定報告】金子理事長

昨年度より若手研究者支援制度を立ちあげた。企業より寄付を募って若手に対する研究者賞と研究助成を行う制度である。第1回若手研究者賞に国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 桑原政成先生が決定し2022年10月の第2回WEB講演会で受賞講演を行った。若手研究助成には大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 藏城雅文先生及び静岡県立大学食品栄養科学部 栄養生命科学科 川上由香先生の2名が決定した。昨年3月に募集を締め切って5月に決定し学会から助成金振り込んだ。助成金は30万円と多くはないが、今後寄付金の集まりや、学会の収支が良いようであれば少し増額していくことも検討していく予定。先月、寄付をいただいた(株)富士薬品に感謝状を贈っている。もうすでに来年度の募集が始まっており、それぞれ2~3名の応募があると報告された。

【第6号議案 第56回優秀演題賞候補演題決定報告】四ノ宮先生

今回から初の試みである優秀演題賞について、6題が候補演題となった。選定においては内規やCOIにのっとり選考した。あとは当日の発表を見て最終審査し最優秀演題賞および優秀演題賞を決めていくとのことであった。今後もこのような取り組みを続けていき、若手の方も中心となって関わってほしい。セッションは1日目に組み込んでおり、可能であればコロナの状況も収まってきているので懇親会で受賞者を披露できればと思うとのことであった。

【第7号議案 2022年度優秀論文賞受賞者決定報告】山内先生

前年1月~12月の間に本学会機関紙に掲載された痛風と尿酸・核酸代謝に関する原著論文及び症例報告の中から編集委員会で審議の結果、最優秀論文賞は山形大学公衆衛生学衛生学講座 今田恒夫先生の「全国特定健診受診者の血清尿酸値1年変化と総死亡・心血管死亡リスクの関連について：J-SHC研究」、優秀論文賞はあわら病院内科 大槻希美先生の「排泄低下型高尿酸血症の診断におけるスポット尿の尿酸排泄分画(FEua)の妥当性」及び、持田製薬株式会社メディカルアフェアーズ部メディカルサイエンス 直江智子先生の「Efficacy of dotinurad, a selective urate reabsorption inhibitor, in patients with hyperuricemia/gout and cardiovascular risks : a pooled analysis of phase II/III studies」に決定したことが山内編集幹事より報告された。また2月23日(木・祝)

の第 56 回学会総会で表彰式が行われるとのことであった。

【第 8 号議案 編集委員会報告】 山内先生

山内編集幹事より下記の通り報告があった。

1. 2022 年の J-Stage アクセス数は月平均 24,500 回、1 年では約 270,000 回であった。ここ数年は横ばいで大変喜ばしいことと考えている。
2. 2022 年学会誌の掲載論文数は総説 2 編、原著 10 編あわせて 12 編だった。
3. 編集委員の交代につき加藤雅彦先生、益田郁子先生、松尾洋孝先生、の 3 名の先生が編集委員を任期満了となり、編集委員で次期編集委員について専門分野、所属などを考慮した結果、中山昌喜先生、山岡法子先生、水田栄之助先生に決定されたと報告があった。

【第 9 号議案 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告】 谷口先生
認定痛風医資格制度委員会報告

2022 年 4 月 1 日から 1 か月間 web によるオンデマンド形式で教育研修会を開き、受講者は 34 名（実際の受講者数は 31 名）だった。2022 年の認定痛風医試験は委員の先生方の賛同を得て C B T 方式で開催したが申込者がなかったので実施していない。認定痛風医は更新が 4 名、新規が 1 名であった。従来紙ベースで審査を行っていたが、事務局の移転によりスペースの削減を考慮し、更新の方は書類を電子媒体で送ってもらい委員全体で審査をした。新規の方は医師免許証など個人情報の問題もあるので紙ベースで送ってもらい、こういうもの以外は事務局で電子媒体化して、審査は学会の OneDrive を利用して行った。結果 5 名とも認定に問題なしという結果になった。この審査結果は理事会で承認いただいている。2023 年の教育研修会は昨年同様 web によるオンデマンド形式で行う。委員の交代について大野岩男先生、長瀬満夫先生、森脇優司先生、瀬戸洋平先生が今年の 3 月で任期満了となり、新任として福岡赤十字病院の大坪俊夫先生、独協医科大学日光医療センターの大谷直由先生、京都大学の山下浩平先生、防衛医科大学校の河村優輔先生に内諾をいただいている。河村先生は留学期間と重なるが、その間は谷口先生が留学の期間を妨げないように配慮するとのことで内諾を得ているとのことであった。収支も認定痛風医の数も安定しているが、新規の数が少し減っているイメージであるとのことであった。

COI 委員会からは特になし。

【第10号議案 ガイドライン広報委員会報告 中国語翻訳版の進捗状況を含む】金子理事長

日本より患者数が多い中国でガイドラインを発刊してはどうかという提案が2020年の理事会で承認された。当初2021年4月に翻訳が完成していたが、出版に関わる費用5万円の請求が翻訳を担当した常先生にいくという問題が発生したため、執行部で検討し、学会と関連のある税理士、弁護士に相談した結果、学会から前ガイドライン広報委員長の内田先生を経て常先生に5万元支払うのが良いというアドバイスを得て、2022年の学会総会において承認された。その後2022年3月に学会から出版協力金として5万元（約80万円）が内田先生に支払われ、内田先生から常先生に送金された。以降出版に向けて比較的スムーズに進んでいたが、当初約束していた2022年9月には出版が間に合わず、学会から働きかけて延長契約をした。次の目標は2023年4月だったがまだ（1.2.3審査の）1審中のため遅れ気味ではあるが、何とか出版まではできる状況であることが報告された。

【第11号議案 ダイバーシティ推進委員会報告】金子理事長

2021年2月に発足し、まず男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー会員として入会した。全部で約60の学会が入っている。学会総会においては第54回では学会員を対象にアンケートを実施し、そのアンケート結果を学会HPに掲載した。第55回では総会に参加した方を対象にアンケートを実施した。昨年の学会では託児室開設の準備はしていたが、オンライン学会になったためできなかった。第1回委員会でこのアンケートの内容を検討した。どちらもweb開催だったためかコメディカルや非会員の方の参加が多く、医師の参加が少なかった。会員はオンサイト形式を希望する傾向にあるが、非会員はweb形式を希望している方が多かった。また学会総会の内容についてはシンポジウムが好評だった。その他の内容としては今まで知っているような内容であっても再度シンポジウムで取り上げてほしいという意見が何件かあった。このアンケート結果は第56回学会総会会長の四ノ宮先生にフィードバックし学会運営に活かしていただいている。第2回委員会はまず託児所についてどこの会社に依頼するかを検討した。第56回学会総会事務局の中山先生のご尽力や、男女共同参画学協会連絡会からの情報もいただき、各地に支店があり実績も十分なALPHA Corporationに決まった。次の学会では4人の演者でシンポジウムを1つ担当する（若手委員会と隔年）。このシンポジウムはオンデマンド配信をしていただくように依頼している。理由としては単位についても多職種の

方を取っていただきたいためである。さまざまな職種で単位がとれるように総会運営事務局で尽力いただいた。引き続き今回の学会総会でもニーズアンケートも行う予定との説明があった。

【第12号議案 若手委員会報告】 桑原先生

若手を中心とした自由な発想で議論し総会での企画や委員会活動への新たな提案をすべく2021年5月に発足、7月に結成された。最初メンバーは8名だったが、新しく独協医科大学の大内基司先生、東北大学の西宮健介先生、帝京大学の福内友子先生、山陰労災病院の水田栄之助先生、久留米大学の森川渚先生の5名が就任し現在13名で活動している。活動報告として昨年は5回の委員会を通し、共催シンポジウムの企画、学会のHPへの質問の対応、新委員紹介、若手委員会企画シンポジウムの内容検討、論文紹介、今後の方向性の検討、研究発表、Twitter運用の検討などがあった。そのほかの活動予定としては関連学会とのジョイントシンポジウムの企画提案がある。1つはすでに2022年12月3日に開催された第96回日本薬理学会年会シンポジウムで、もう1つが次回2023年3月10日に開催される第87回日本循環器学会学術集会シンポジウムである。さらに第57回学会総会で主催するシンポジウムにおける企画、またこのシンポジウムで発表する内容の英語論文化、学会宛ての質問に対する回答案の作成、肥満症診療ガイドランのパブコメに対する意見(案)の作成、学会認定のTwitterアカウントの作成、痛風・尿酸財団への「痛風・尿酸ニュース」の投稿などを挙げた。次年度の目標としては痛風・尿酸領域の魅力を伝え、本学会に興味を持っていただくこと、痛風・尿酸の正しい知識を普及させていくことなどを挙げた。また今後皆様と協力しながら学会を盛り上げていきたい。ベテランの先生方の協力も得て活動していきたいとのことであった。金子理事長より事務局に届く患者さんからの質問に対して若手委員会が答えてくれるのでとても助かっているとのことであった。

【第13号議案 ありかた委員会報告】 金子理事長

・web講演会の継続について(金子理事長)

今後もweb講演会は継続していく予定である。

1. 画像診断のhands on セミナー(DECTや関節エコーの撮像法)
2. webを用いた外国人との議論の場を創る。
3. 生成抑制薬と排泄促進薬の使い分けや併用に関しての学会の提言を進めていく。

以上の3案が挙げられた。

- ・新委員会『学会交流委員会』の発足（久留先生）

学会交流委員会の目的は、今後のガイドライン改訂のために他学会から重要な臨床課題を提案してもらうこと、ジョイントシンポジウムや学会の単位認定を一緒に行っていくことなどがある。関連学会候補はガイドライン第3版の作成時のリエゾン学会を中心に29の学会をリストアップした。ただし当学会のマンパワーもあるので、必要最小限の学会を選び、相手の学会からのリエゾン委員とそれに対応する当学会からの学会交流委員を選んで、その委員同士を介してコミュニケーションをはかっていたいただき学会活動を発展させていきたい。まず学会交流委員会の全体像をありかた委員会でも議論して、それから学会交流委員会を立ち上げ活動していくことになるとの説明があった。

【第14号議案 庶務幹事報告】細山田先生

- ・認定痛風医名簿の二次利用について

2022年9月にギミックドクターズ・ファイル編集部より、ドクターズファイルのサイト上で、痛風の診療が可能な医療機関を検索したときに、認定痛風医の名簿に載っている先生方の所属先医療機関を掲載させてほしいと依頼があった。名簿の先生方の所属先医療機関のページに「痛風」のアイコンを表示させていただきたいとのことであった。これに対して理事会で、個人情報をお渡ししないということを約束した上で進めていくことで承認された。ドクターズファイルは基本情報とインタビュー記事の2つに分かれており、基本情報は医療機関を無料で掲載する。インタビュー記事はドクター個人に対してインタビューを行ってそれを有料で掲載するものになっている。今回の提案は無料の基本情報の掲載である。それに関して掲載許可は医療機関の方の許可になる。主に開業医の先生が自分の病院を基本情報として掲載させている（約16万件）。まだ打診を受けた段階なので詳細については今後慎重に詰めていくとのことであった。

- ・職員給与について

就業規則で15年以上の勤続年数になると理事会で給与を決定することになっている。今回15年目になるので毎年月額2,000円昇給するということが理事会で承認されたとのことであった。

- ・学会HPアクセス数は今年度、月平均3,700件で前年度の月平均6,300件より減少している。J-Stageアクセス数の約7分の1になっている。

【第15号議案 役員改選】金子理事長

(i) 理事の改選

新規選任1名 加藤雅彦評議員

(ii)

新規選任5名 今田恒夫先生、柴田茂先生、田村好古先生、
古橋真人先生、山口聡先生

議長が議案15の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。

(iii) 新理事長 久留一郎先生

新副理事長 市田公美先生（継続）、山内高弘先生（新規）

新庶務幹事 細山田真先生（継続）

金子理事長より3年間理事長を務め、この間に市田先生、津谷先生のオンライン学会のサポート、新しい委員会としてダイバーシティ委員会、若手委員会を立ち上げ若手研究者支援事業やweb講演会にも取り組んできた。しかし今後重要なのはガイドライン第4版の作成に向け始動することであり、次の理事長にはガイドライン作成に経験が豊富で、かつリーダーシップを発揮していただける久留一郎先生を推薦し、理事会で承認されたと報告があった。久留先生よりご挨拶をいただき、次の執行部も紹介された。副理事長が市田公美先生と山内高弘先生、庶務幹事が細山田真先生とのことであった。久留先生より学会の伝統を受け継ぎつつよりさらに発展させていきますとの前向きで心強いご挨拶をいただいた。

【第16号議案 その他】金子理事長

特になし。

【第17号議案 第57回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】金子理事長
会期は2024.2/29-3/1で場所はとりぎん文化会館で学会総会を開催する。
鳥取赤十字病院が向かい側にある。テーマは「未来へ そして世界へ」であるとのことであった。


【第18号議案 第56回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】四ノ宮先生
東京都内のグランドヒル市ヶ谷で2月23日(木・祝)、24日(金)の両日で行う。コロナの件を心配していたが、第8波も大分治まってきている傾向

にあり、昨年の10月初旬くらいのレベルに大体落ち着いてきている。国の方針としてもつい最近だが、会場に定員通りの人数を入れたり、懇親会も感染に注意しつつ開催したりしても良いということに変更された。我々としても久しぶりに皆様にお会いして、お話や議論をしたいので、予定通りオンサイトでを行うということで決定している。皆様もこぞって参加していただきたい。まだ regulation 等で懇親会など参加しにくいという方もいると思うので、場所を区切ってポスター会場の横に飲食を伴わない communication スペースも設けるつもりである。抄録も完成し配布する段階なので近々届けられると思う。新たな試みも滞りなく進むようにしっかりと取り組んでいく。オンサイトではあるがオンデマンドで主なシンポジウムや特別講演等は流す予定。当日どうしても来られない方は利用してほしいとのことであった。

以上で評議員会の審議はすべて終了し、議長は18時35分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名捺印する。

2023年 2月 8日

理事長 金子 希代子 

監事 板倉 光夫 